

第11次鳥獣保護事業計画書

平成24年4月 1日から

5年間

平成29年3月31日まで

石 川 県

はじめに	
鳥獣保護事業をめぐる現状と課題	1
第一 計画の期間	2
第二 鳥獣保護区、特別保護地区及び休猟区に関する事項	2
1 鳥獣保護区の指定	2
(1) 方針	2
(2) 鳥獣保護区の指定等計画	3
(3) 鳥獣保護区指定内訳	4
2 特別保護地区の指定	5
(1) 方針	5
(2) 特別保護地区指定等計画	6
(3) 特別保護地区指定内訳	7
3 休猟区の指定	7
(1) 方針	7
(2) 休猟区指定計画	7
(3) 特例休猟区指定計画	8
4 鳥獣保護区の整備等	8
(1) 方針	8
(2) 整備計画	8
(3) 保全事業の実施	8
第三 鳥獣の人工増殖及び放鳥獣に関する事項	9
1 鳥獣の人工増殖	9
(1) 方針	9
(2) 人工増殖計画	9
2 放鳥獣	9
第四 鳥獣の捕獲等及び鳥類の卵の採取等の許可に関する事項	9
1 鳥獣の区分と保護管理の考え方	9
(1) 希少鳥獣	9
(2) 狩猟鳥獣	9
(3) 外来鳥獣等	9
(4) 一般鳥獣	10
2 鳥獣の捕獲等又は鳥類の卵の採取等に係る許可基準の設定	10
(1) 許可しない場合の基本的考え方	10
(2) 許可する場合の基本的考え方	10
(3) わなの使用に当たっての許可基準	11
(4) 許可に当たっての条件の考え方	11
(5) 許可権限の市町長への委譲	11
(6) 捕獲実施に当たっての留意事項	12
(7) 捕獲物又は採取物の処理等	12
(8) 捕獲等又は採取等の情報の収集	12
(9) 保護の必要性が高い種又は地域個体群に係る捕獲許可の考え方	12
3 学術研究を目的とする場合	13
(1) 学術研究	13
(2) 標識調査	13
4 鳥獣による生活環境、農林水産業又は生態系に係る被害の防止を目的とする場合	14
(1) 有害鳥獣捕獲の基本的考え方	14
(2) 予察捕獲	14
(3) 有害鳥獣捕獲についての許可基準の設定	16
(4) 有害鳥獣捕獲の適正化のための体制の整備等	17
5 特定計画に基づく数の調整を目的とする場合	17
(1) 許可対象者	17
(2) 鳥獣の種類・数	17
(3) 期間	17
(4) 区域	17

(5) 方法	17
6 その他特別の事由の場合	18
第五 特定猟具使用禁止区域、特定猟具使用制限区域及び猟区に関する事項	20
1 特定猟具使用禁止区域の指定	20
(1) 方針	20
(2) 特定猟具使用禁止区域指定計画	20
(3) 特定猟具使用禁止区域指定内訳	21
2 特定猟具使用制限区域の指定	22
3 猟区設定のための指導	22
4 指定猟法禁止区域	22
第六 特定鳥獣保護管理計画の作成に関する事項	23
1 特定鳥獣保護管理計画の作成に関する方針	23
2 実施計画の作成に関する方針	23
第七 鳥獣の生息の状況の調査に関する事項	24
1 基本方針	24
2 鳥獣保護対策調査	24
(1) 方針	24
(2) 鳥獣生息分布調査	24
(3) 希少鳥獣等保護調査	24
(4) ガン・カモ・ハクチョウ類一斉調査	24
3 鳥獣保護区等の指定・管理等調査	24
4 狩猟対策調査	25
(1) 方針	25
(2) 狩猟鳥獣生息調査	25
(3) 放鳥効果測定調査	25
5 有害鳥獣対策調査	25
(1) 方針	25
(2) 調査の概要	25
第八 鳥獣保護事業の実施体制に関する事項	26
1 鳥獣行政担当職員	26
(1) 方針	26
(2) 設置計画	26
(3) 研修計画	26
2 鳥獣保護員	26
(1) 方針	26
(2) 設置計画	26
(3) 年間活動計画	27
(4) 研修計画	27
3 保護管理の担い手の育成	27
(1) 方針	27
(2) 狩猟者の育成	27
4 鳥獣保護センター等の設置	27
(1) 方針	27
(2) 鳥獣保護センター等の施設概要	27
5 取締り	27
(1) 方針	27
(2) 年間計画	27
6 必要な財源の確保	28
第九 その他鳥獣保護事業の実施のために必要な事項	28
1 鳥類の飼養登録	28
2 販売禁止鳥獣等	28
(1) 許可の考え方	28
(2) 許可の条件	28

3	傷病鳥獣救護の基本的な対応	29
4	安易な餌付けの防止	29
5	感染症への対応	30
(1)	高病原性鳥インフルエンザ	30
(2)	その他の感染症	30
6	普及啓発	31
(1)	鳥獣の保護管理についての普及等	31
(2)	野鳥観察舎等の整備	31
(3)	愛鳥モデル校の指定	32
(4)	法令の普及徹底	32

はじめに

鳥獣保護事業をめぐる現状と課題

本県は、本州中央部の日本海側に位置し、北部には日本海に突き出た能登半島の長く複雑な海岸線、南東部には高山帯を持つ白山を擁するなど、変化に富んだ自然環境を有している。この豊かな自然の中で多種多様な野生生物が生息しており、人と鳥獣との適切な関係を構築し、生物の多様性を維持していくことが重要な課題となっている。

しかし、近年、開発等による生息環境の悪化や里山の手入れ不足などにより、絶滅が危惧される生物が増加している一方で、特定の鳥獣による生活環境や農林水産業、生態系に係る被害が一層深刻な状況となっており、これらの鳥獣の個体数管理や生息環境管理、被害防除対策等の実施による総合的な鳥獣の保護管理の一層の推進が必要となっている。

鳥獣の保護管理は、生物多様性基本法（平成20年法律第58号）の趣旨を踏まえるとともに、平成22年に開催された生物の多様性に関する条約第10回締約国会議において採択された新戦略計画（愛知目標）の達成に向け、重要な役割を担っており、加えて、深刻な状況にある農林水産業被害に対応するため、鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律（平成19年法律第134号。以下「鳥獣被害防止特措法」という。）に基づく被害防止計画等との一層の連携や、地域における多様な主体の連携による生物の多様性の保全のための活動の促進等に関する法律（平成22年法律第72号）を踏まえた地域レベルでの生物多様性保全活動等を推進することが必要である。

また、狩猟は、趣味や資源利用としての捕獲という側面だけでなく、鳥獣被害防止という社会的役割を果たしており、狩猟の適正化を図るとともに、狩猟者の減少や高齢化が進行する中で、狩猟者の育成、確保、地域ぐるみでの取組及び隣接地域との連携の推進が重要な課題となっている。

こうしたことを踏まえ、鳥獣保護事業は、関係者間の合意形成を図りながら、種及び地域個体群の長期的かつ安定的な存続と生活環境や農林水産業、生態系への被害の防止という考え方を基本として実施する。

第一 計画の期間

平成24年4月1日から平成29年3月31日までの5年間とする。

第二 鳥獣保護区、特別保護地区及び休猟区に関する事項

1 鳥獣保護区の指定

(1) 方針

① 指定に関する中長期的な方針

県民の野生鳥獣保護に対する関心が高まってきている一方で、鳥獣保護区指定に伴う鳥獣被害増大の危惧が農林業者を中心に根強いことから、鳥獣保護区の指定に当たっては、鳥獣の生息状況、生息環境及び周辺地域への影響を十分に配慮し、鳥獣保護と人間生活の調和を基本に、利害関係者間の意見の調整を図りながら指定する。

今計画期間中において、指定期間が満了となる鳥獣保護区については原則として期間更新を行い、既指定鳥獣保護区の維持と充実を図り、鳥獣の保護繁殖に努める。

ただし、著しい生活環境、農林水産業等への被害が見られる場合は、被害防除対策の実施とともに、捕獲の促進を図るため、区域の見直しを検討する。

② 指定区分ごとの考え方

1) 森林鳥獣生息地の保護区

森林に生息する鳥獣の保護を図り、地域における生物多様性の確保に資するため必要な地域について、森林鳥獣生息地の保護区を指定する。

2) 大規模生息地の保護区

行動圏が広域に及ぶ大型鳥獣を始め当該地域に生息する多様な鳥獣相を保護し、地域の生物多様性の拠点の確保に資するため必要な地域について、大規模生息地の保護区を指定する。

3) 集団渡来地の保護区

集団で渡来する渡り鳥の保護を図るため、これらの渡来地である干潟、湿地、湖沼、岩礁等のうち必要な地域について、集団渡来地の保護区を指定する。

4) 集団繁殖地の保護区

集団で繁殖する鳥類及びビコウモリ類の保護を図るため、島しょ、断崖、樹林、草原、砂地、洞窟等における集団繁殖地のうち必要な地域について、集団繁殖地の保護区を指定する。

5) 希少鳥獣生息地の保護区

環境省が作成したレッドリストにおいて絶滅危惧ⅠA・ⅠB類又はⅡ類に該当する鳥獣若しくは絶滅のおそれのある地域個体群として掲載されている鳥獣、石川県が作成したレッドデータブックに掲載されている鳥獣その他の絶滅のおそれのある鳥獣又はこれらに準ずる鳥獣の生息地であって、これらの鳥獣の保護上必要な地域について、希少鳥獣生息地の保護区を指定する。

6) 生息地回廊の保護区

生息地が分断された鳥獣の保護を図るため、生息地間をつなぐ樹林帯や河畔林等であって鳥獣の移動経路となっている地域又は鳥獣保護区に指定することにより鳥獣の移動経路としての機能が回復する見込みのある地域のうち必要な地域について、生息地回廊の保護区を指定する。

7) 身近な鳥獣生息地の保護区

市街地及びその近郊において鳥獣の良好な生息地を確保し若しくは創出し、豊かな生活環境の形成に資するため必要と認められる地域又は自然とのふれあい若しくは鳥獣の観察や保護活動を通じた環境教育の場を確保するため必要と認められる地域について、身近な鳥獣生息地の保護区を指定する。

(2) 鳥獣保護区の指定等計画

(第1表)

区分	既指定鳥獣保護区(A)	本計画期間に指定する鳥獣保護区								本計画期間に区域拡大する鳥獣保護区										
		年度	24	25	26	27	28	計(B)	24	25	26	27	28	計(C)						
森林鳥獣生息地	箇所	31						0												
	面積(ha)	23,553																		
大規模生息地	箇所	0																		
	面積(ha)	0																		
集団渡来地	箇所	8																		
	面積(ha)	3,463																		
集団繁殖地	箇所	2																		
	面積(ha)	292																		
希少鳥獣生息地	箇所	0																		
	面積(ha)	0																		
生息地回廊	箇所	0																		
	面積(ha)	0																		
身近な鳥獣生息地	箇所	7																		
	面積(ha)	2,194																		
計	箇所	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	面積(ha)	29,502	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(2) 鳥獣保護区の指定等計画

区分	本計画期間に区域縮小する鳥獣保護区								本計画期間に解除又は期間満了となる鳥獣保護区								計画期間中の増△減*	計画終了時の鳥獣保護区**			
	24	25	26	27	28	計(D)	24	25	26	27	28	計(E)									
森林鳥獣生息地	箇所						0						0								31
	面積(ha)						0						0								23,553
大規模生息地	箇所						0						0								0
	面積(ha)						0						0								0
集団渡来地	箇所						0						0								8
	面積(ha)						0						0								3,463
集団繁殖地	箇所						0						0								2
	面積(ha)						0						0								292
希少鳥獣生息地	箇所						0						0								0
	面積(ha)						0						0								0
生息地回廊	箇所						0						0								0
	面積(ha)						0						0								0
身近な鳥獣生息地	箇所						0						7								7
	面積(ha)						0						2,194								2,194
計	箇所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	10
	面積(ha)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29,502	0	0	0	0	0	0	1	29,502

* 箇所数についてはB-E
面積についてはB+C-D-E

**箇所数についてはA+B-E
面積についてはA+B+C-D-E

(3) 鳥獣保護区指定内訳

① 鳥獣保護区の新設指定計画 該当なし

② 既指定鳥獣保護区の変更計画

(第2表)

年度	指定区分	鳥獣保護区 名称	変更区分	指定面積の異動			変更後の指定期間	変更理由
				異動前 の面積	異動 面積	異動後 の面積		
平成24年度	森林鳥獣生息地	手取地区	期間更新	503ha	ha	503ha	24年11月1日から 34年10月31日まで	
	身近な鳥獣生息地	専光寺	期間更新	150		150	24年11月1日から 34年10月31日まで	
	森林鳥獣生息地	巖門	期間更新	95		95	24年11月1日から 44年10月31日まで	
	身近な鳥獣生息地	清水	期間更新	18		18	24年11月1日から 34年10月31日まで	
	森林鳥獣生息地	奥能登	期間更新	3,175		3,175	24年11月1日から 34年10月31日まで	
	身近な鳥獣生息地	二俣	解 除	10		0		※
計		6箇所 △1箇所		3,951		3,941		
平成25年度	集団渡来地	大聖寺	期間更新	1,439		1,439	25年11月1日から 35年10月31日まで	
	森林鳥獣生息地	杉水	期間更新	710		710	25年11月1日から 35年10月31日まで	
	森林鳥獣生息地	鈴ヶ岳	期間更新	1,439		1,439	25年11月1日から 35年10月31日まで	
	森林鳥獣生息地	キゴ山	期間更新	328		328	25年11月1日から 35年10月31日まで	
	身近な鳥獣生息地	卯辰山	期間更新	1,450		1,450	25年11月1日から 35年10月31日まで	
	集団渡来地	河北潟	期間更新	573		573	25年11月1日から 35年10月31日まで	
	集団繁殖地	河北海岸	期間更新	107		107	25年11月1日から 35年10月31日まで	
	森林鳥獣生息地	津幡	期間更新	1,600		1,600	25年11月1日から 35年10月31日まで	
	森林鳥獣生息地	和倉	期間更新	550		550	25年11月1日から 45年10月31日まで	
	森林鳥獣生息地	小丸山	期間更新	45		45	25年11月1日から 45年10月31日まで	
	森林鳥獣生息地	甲	期間更新	120		120	25年11月1日から 35年10月31日まで	
	森林鳥獣生息地	奥七海	期間更新	1,457		1,457	25年11月1日から 35年10月31日まで	
計		12箇所		9,818		9,818		
平成26年度	森林鳥獣生息地	山代温泉	期間更新	590		590	26年11月1日から 36年10月31日まで	
	森林鳥獣生息地	火打谷	期間更新	265		265	26年11月1日から 46年10月31日まで	
計		2箇所		855		855		
平成27年度	身近な鳥獣生息地	鶴来	期間更新	500		500	27年11月1日から 37年10月31日まで	
	森林鳥獣生息地	眉丈山	期間更新	602		602	27年11月1日から 47年10月31日まで	
	集団渡来地	一ノ宮	期間更新	96		96	27年11月1日から 47年10月31日まで	
計		3箇所		1,198		1,198		
平成28年度	森林鳥獣生息地	深見	期間更新	1,449		1,449	28年11月1日から 38年10月31日まで	
計		1箇所		1,449		1,449		
合 計		24箇所 △1箇所		17,271		17,261		

※指定地及び周辺農地におけるイノシシ等による農業被害、生活環境被害の防止、軽減を図るため。

2 特別保護地区の指定

(1) 方針

① 指定に関する中長期的な方針

計画期間中に、満了となる特別保護地区について、区域の見直しを行い、指定当初の自然環境が保全されている地区については、再指定を行う。

② 指定区分ごとの考え方

1) 森林鳥獣生息地の保護区

良好な鳥獣の生息環境となっている区域のうち必要と認められる区域について、指定するよう努める。

2) 大規模生息地の保護区

猛禽類や大型鳥獣を含む多様な鳥獣が生息し、当該保護区において必要と認められる中核的地区について、指定するよう努める。

3) 集団渡来地の保護区

渡来する鳥類の採餌場又はねぐらとして必要と認められる中核的地区について、指定するよう努める。

4) 集団繁殖地の保護区

保護対象となる鳥類及びコウモリ類の繁殖を確保するため必要と認められる中核的地区について、指定するよう努める。

5) 希少鳥獣生息地の保護区

保護対象となる鳥獣の繁殖、採餌等に必要な区域を広範囲に指定するよう努める。

6) 生息地回廊の保護区

保護対象となる鳥獣の移動経路として必要と認められる中核的地区について、指定するよう努める。

7) 身近な鳥獣生息地の保護区

鳥獣の誘致又は鳥獣保護思想の普及啓発上必要と認められる区域について、指定するよう努める。

(2) 特別保護地区指定等計画

(第3表)

区	分	既指定特別保護地区(A)	本計画期間に指定する特別保護地区 (再指定も含む)					本計画期間に区域拡大する特別保護地区							
			24	25	26	27	28	計(B)	24	25	26	27	28	計(C)	
森林鳥獣生息地	箇所	6			1	2		3							
	変動面積(ha)	436		99	117		216								
大規模生息地	箇所	0					0								
	変動面積(ha)	0					0								
集団渡来地	箇所	1					0								
	変動面積(ha)	10					0								
集団繁殖地	箇所	0					0								
	変動面積(ha)	0					0								
希少鳥獣生息地	箇所	0					0								
	変動面積(ha)	0					0								
生息地回廊	箇所	0					0								
	変動面積(ha)	0					0								
身近な鳥獣生息地	箇所	0					0								
	変動面積(ha)	0					0								
計	箇所	7	0	1	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	変動面積(ha)	446	0	99	117	0	216	0	0	0	0	0	0	0	0

区	分	本計画期間に区域縮小する特別保護地区					本計画期間に解除又は期間満了となる 特別保護地区(再指定も含む)					計画期間中の 増△減*	計画終了時の 特別保護地区**		
		24	25	26	27	28	計(D)	24	25	26	27			28	計(E)
森林鳥獣生息地	箇所						0		1	2			3		6
	変動面積(ha)						0		99	117			216		436
大規模生息地	箇所						0						0		0
	変動面積(ha)						0						0		0
集団渡来地	箇所						0						0		1
	変動面積(ha)						0						0		10
集団繁殖地	箇所						0						0		0
	変動面積(ha)						0						0		0
希少鳥獣生息地	箇所						0						0		0
	変動面積(ha)						0						0		0
生息地回廊	箇所						0						0		0
	変動面積(ha)						0						0		0
身近な鳥獣生息地	箇所						0						0		0
	変動面積(ha)						0						0		0
計	箇所	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3	0	7
	変動面積(ha)	0	0	0	0	0	0	99	117	0	0	0	216	0	446

* 箇所数についてはB-E 面積についてはB+C-D-E
 **箇所数についてはA+B-E 面積についてはA+B+C-D-E

(3) 特別保護地区指定内訳

(第4表)

年度	指定の対象となる鳥獣保護区				特別保護地区		備考
	指定区分	鳥獣保護区 名称	面積	指定期間	指定 面積	指定期間	
平成25年度	森林鳥獣 生息地	津幡	1,600ha	25年11月1日から 35年10月31日まで	99ha	25年11月1日から 35年10月31日まで	再指定
計		1箇所	1,600		99		
平成26年度	森林鳥獣 生息地	山代温泉	590	26年11月1日から 36年10月31日まで	45	26年11月1日から 36年10月31日まで	再指定
	森林鳥獣 生息地	火打谷	265	26年11月1日から 46年10月31日まで	72	26年11月1日から 46年10月31日まで	再指定
計		2箇所	855		117		
合計		3箇所	2,455		216		

3 休猟区の指定

(1) 方針

休猟区は、計画的に狩猟鳥獣の保護増殖を図り、生態系の保全を図ることを目的として指定するものとする。

指定に当たっては、農林水産関係者及び地域住民等の理解を得られるよう留意することとし、その指定期間は原則として3年とするが地域の状況によっては2年とする。

なお、農林水産業被害が顕著である地域については、市町の意向に基づき、加害鳥獣に限り狩猟ができる特例休猟区に指定することを検討する。

(2) 休猟区指定計画

(第5表)

年度	休猟区指定所在地	休猟区名称	指定面積	指定期間	備考
平成24年度	鳳珠郡能登町	曾又	2,015ha	3年	
	輪島市門前町	大丸山	2,780	3	
計		2箇所	4,795		
平成25年度	鹿島郡中能登町	鹿西	1,594	3	
計		1箇所	1,594		
平成26年度	羽咋郡志賀町	米浜	1,348	3	
	鳳珠郡能登町	当目	2,005	3	
		2箇所	3,353		
平成27年度	羽咋郡志賀町	赤住	1,574	3	
	輪島市門前町	中屋	2,030	3	
		2箇所	3,604		
平成28年度	津幡町	河合谷	1,517	3	
	羽咋市尾長町	尾長	1,260	3	
	鳳珠郡能登町	松波	1,750	2	
計		3箇所	4,527		
合計		10箇所	17,873		

(3) 特例休猟区指定計画

特定鳥獣保護管理計画（以下「特定計画」という。）の対象区域内の休猟区において、特定計画の対象鳥獣（以下「特定鳥獣」という。）を狩猟により捕獲することが、特定計画の達成を図るため特に必要と認められるときは、農林業被害等の状況、関係機関等の意見を踏まえ、特定計画の対象区域内の休猟区の全部又は一部について、当該特定鳥獣を狩猟により捕獲することができる特例休猟区の指定に努め、特定計画の効果的・効率的な目標達成を図る。

なお、特例休猟区の指定に当たっては、鳥獣の生息状況を把握し、対象となる鳥獣以外の鳥獣の生息に影響を与えないようにする。また、特定計画の実施期間中においてもモニタリングを行い、鳥獣の生息状況に影響が見られる場合には、必要に応じて特例休猟区の指定を見直す。

4 鳥獣保護区の整備等

(1) 方針

- ・境界を明確にするため、必要枚数の制札を設置する。
- ・鳥獣保護員等が鳥獣保護区等を巡視・管理する。
- ・鳥獣の生息環境の悪化が懸念される箇所については、その環境を改善・保全し、安定的な保護繁殖を図ることとする。

(2) 整備計画

① 管理施設の設置

(第6表)

区分	現況	平成24年度～平成28年度
標識類の整備	新設及び更新鳥獣保護区等、必要に応じて設置	更新鳥獣保護区等、必要に応じて設置

② 利用施設の整備

(第7表)

区分	現況	平成24年度～平成28年度
観察路、観察舎等の整備	河北潟鳥獣保護区 河北潟野鳥観察舎 専光寺鳥獣保護区 ササゴイの池野鳥観察舎 白山鳥獣保護区 ブナオ山観察舎	整備予定なし (必要に応じて維持補修等を行う。)
その他の施設等の整備	鳥類の生息環境の向上を図るため、愛鳥モデル校を中心に巣箱等を設置	鳥類の生息環境の向上を図るため、愛鳥モデル校を中心に巣箱等を設置

③ 調査、巡視等の計画

(第8表)

区分		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
管理員等	箇所数	19市町	19市町	19市町	19市町	19市町
	人数	29人	29人	29人	29人	29人
管理のための調査の実施		鳥獣保護区等の巡視、狩猟の取締り、調査等に努める				

(3) 保全事業の実施

鳥獣保護区の指定後の環境変化等により鳥獣の生息環境が悪化した場合、指定目的及び鳥獣の生息状況に照らして必要があると認められる場合は、保全事業の実施によりその改善に努める。

保全事業を行うに当たっては、関係者等の意見を聴き、当該鳥獣保護区の保護に関する指針において、保全の目標、区域及び事業内容を定め、関係機関等との調整を図る。

なお、保全事業実施後においても、目標達成の状況のモニタリング等に努める。

第三 鳥獣の人工増殖及び放鳥獣に関する事項

1 鳥獣の人工増殖

(1) 方針

国のトキ保護増殖事業計画に基づき、トキの分散飼育地として、いしかわ動物園においてトキの飼育・繁殖に取り組み、種の保存に貢献する。

(2) 人工増殖計画

(第9表)

年度	希少鳥獣		狩猟鳥獣		備考
	鳥獣名	実施方法	鳥獣名	指導方法	
平成24年度 ～平成28年度	トキ	国のトキ保護増殖事業計画に基づき、いしかわ動物園において、飼育・繁殖に取り組む。	該当なし		

2 放鳥獣

- ・狩猟資源の確保のため、キジを休猟区等の生息適地であって、鳥獣被害のおそれのない場所に、計画的に放鳥する。
- ・放鳥の際には、オスに足環を装着の上、狩猟者等にその捕獲報告を求め、生息分布等調査を実施する。
- ・感染症等については、生産業者に指導を行うとともに、関係機関と連絡調整を密に行いながら対応する。

第四 鳥獣の捕獲等及び鳥類の卵の採取等の許可に関する事項

1 鳥獣の区分と保護管理の考え方

(1) 希少鳥獣

① 対象種

環境省レッドリスト又は石川県レッドデータブックに掲載されている鳥獣及び絶滅のおそれのある地域個体群並びにそれに準ずる鳥獣。

② 保護管理の考え方

生息状況等の把握に努め、個体群の維持・回復を図るため必要な保護対策を講じる。

(2) 狩猟鳥獣

① 対象種

鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律（以下「法」という。）第2条第3項により環境省令で定める鳥獣。

② 保護管理の考え方

捕獲実施者等からの報告及び調査等を通じ、生息状況及び生息分布を把握し、必要に応じて捕獲制限あるいは特定計画に基づく個体数調整等を行い、持続的な利用が可能となるよう適切な対応に努める。

(3) 外来鳥獣等

① 対象種

本来、国内に生息地を有しておらず、人為的に海外等から導入された鳥獣及び国内において本来の生息地以外に人為的に導入され、生態系や農林水産業等に係る被害を生じさせている鳥獣。

② 保護管理の考え方

生活環境や農林水産業に著しい被害を及ぼす外来鳥獣等については、当該外来鳥獣を根絶

又は抑制するための積極的な狩猟による捕獲又は有害鳥獣捕獲を積極的に推進する。また、生息状況、生息分布の把握に努め、効果的な被害防止を図る。

(4) 一般鳥獣

① 対象種

本県に生息している（１）～（３）以外の鳥獣。

② 保護管理の考え方

生息状況、生息分布の把握に努め、必要に応じて対策を講じる。

2 鳥獣の捕獲等又は鳥類の卵の採取等に係る許可基準の設定

(1) 許可しない場合の基本的考え方

以下の場合においては、許可をしないものとする。

- ① 捕獲後の処置の計画等に照らして明らかに捕獲の目的が異なると判断される場合。
- ② 捕獲等又は採取等によって特定の鳥獣の地域個体群に絶滅のおそれを生じさせたり、絶滅のおそれを著しく増加させる等、鳥獣の保護に重大な支障を及ぼすおそれのある場合。ただし、外来鳥獣等により生態系に係る被害が生じている地域又は外来鳥獣等の生息が認められ、今後被害が予想される地域において、当該鳥獣による当該地域の生態系に係る被害を防止する目的で捕獲等又は採取等をする場合は、当該鳥獣を根絶又は抑制するため、積極的な有害鳥獣捕獲を図るものとする。
- ③ 鳥獣の生息基盤である動植物相を含む生態系を大きく変化させる等、捕獲等又は採取等によって生態系の保護に重大な支障を及ぼすおそれがある場合。
- ④ 捕獲等又は採取等に際し、住民の安全の確保又は社寺境内、墓地における捕獲等を認めることによりそれらの場所の目的や意義の保持に支障を及ぼすおそれがある場合。
- ⑤ 特定猟具使用禁止区域内で特定猟具を使用した捕獲等を行う場合であって、特定猟具の使用によらなくても捕獲等の目的が達せられる場合、又は、特定猟具使用禁止区域内における特定猟具の使用に伴う危険の予防若しくは法第9条第3項第4号に規定する指定区域(以下「指定区域」という。)の静穏の保持に著しい支障が生じる場合。
- ⑥ 法第36条及び規則第45条に危険猟法として規定される猟法により捕獲等を行う場合。ただし、法第37条の規定による環境大臣の許可を受けたものについては、この限りでない。
- ⑦ 愛玩のための飼養を目的とする場合。

(2) 許可する場合の基本的考え方

以下の場合においては、許可することができるものとする。

① 学術研究を目的とする場合

学術研究（環境省足環を用いる標識調査を含む。）を目的とする捕獲等又は採取等は、当該研究目的を達成するために不可欠な必要最小限のもの（外来鳥獣等に関する学術研究にあっては適切なもの）であって、適正な研究計画の下でのみ行われるものとする。

② 鳥獣による生活環境、農林水産業又は生態系に係る被害の防止を目的とする場合

鳥獣による生活環境、農林水産業又は生態系に係る被害（以下第四において「被害」という。）が現に生じているか又はそのおそれがある場合で、原則として被害防除の実施によっても被害が防止できないときに、その防止及び軽減を図るために行うものとする。特に、外来鳥獣等については、当該鳥獣を根絶又は抑制するため、積極的な有害鳥獣捕獲を図るものとする。

③ 特定計画に基づく数の調整を目的とする場合

個体数調整を目的とした捕獲等又は採取等は、人と鳥獣との共存を目指した科学的・計画的な保護管理の一環として、地域個体群の長期にわたる安定的維持を図るために必要な範囲内で行われるものとする。

④ その他特別な事由を目的とする場合

上記以外の特別な事由を目的とした捕獲等又は採取等に関しては、原則として次の事由に該当するものを対象とするものとする。

1) 鳥獣の保護に係る行政事務の遂行の目的

鳥獣行政事務担当職員が職務上の必要があつて捕獲又は採取する場合。

2) 傷病により保護を要する鳥獣の保護の目的

- 鳥獣行政事務担当職員や鳥獣保護員等が、傷病鳥獣を保護する目的で捕獲する場合。
- 3) 博物館、動物園その他これに類する施設における展示の目的
博物館、動物園等の公共施設において飼育展示するために捕獲又は採取する場合。
 - 4) 養殖している鳥類の過度の近親交配の防止の目的
鳥類の人工養殖を行っている者が、遺伝的劣化を防止する目的で野生の個体を捕獲又は採取する場合。
 - 5) 鵜飼漁業への利用
鵜飼漁業者が漁業に用いるためウミウ又はカワウを捕獲する場合。
 - 6) 伝統的な祭礼行事等に用いる目的
伝統的な祭礼行事等に用いる場合。
 - 7) 前各号に掲げるもののほか鳥獣の保護その他公益に資すると認められる目的
環境教育に利用する目的、環境影響評価のための調査、被害防除対策事業等のための個体の追跡を目的として捕獲等又は採取等する場合等。
- (3) わなの使用に当たっての許可基準
わなを使用した捕獲許可申請においては、以下の基準を満たすものとする。ただし、①1)のくくりわなの輪の直径については、捕獲場所、捕獲時期及びクマ類の生息状況等を勘案して、錯誤捕獲のおそれが少ないと判断される場合には、以下によらないことができるものとする。
- ① 獣類の捕獲を目的とする許可申請の場合（③の場合を除く。）
 - 1) くくりわなを使用した方法での許可申請の場合は、原則として輪の直径が12センチメートル以内であり、締付け防止金具を装着したものであること。
 - 2) とらばさみを使用した方法での許可申請の場合は、鋸歯がなく、開いた状態における内径の最大長は12センチメートルを超えないものであり、衝撃緩衝器具を装着したものであること。
 - ② イノシシ及びニホンジカの捕獲を目的とする許可申請の場合
くくりわなを使用した方法での許可申請の場合は、①1)の規制に加えて、ワイヤーの直径が4ミリメートル以上であり、よりもどしを装着したものであること。
 - ③ ヒグマ及びツキノワグマの捕獲を目的とする許可申請の場合
はこわなに限るものとする。
- (4) 許可に当たっての条件の考え方
捕獲等又は採取等の許可に当たっての条件は、期間の限定、捕獲する区域の限定、捕獲方法の限定、鳥獣の種類及び数の限定、捕獲物の処理の方法、捕獲等又は採取等を行う区域における安全の確保・静穏の保持、捕獲を行う際の周辺環境への配慮並びにわな猟にあっては適切なわなの数量の限定及び見回りの実施方法等について付すものとする。
特に、住居と隣接した地域において捕獲等を許可する場合には、住民の安全を確保する観点から適切な条件を付すものとする。
- (5) 許可権限の市町長への委譲
知事の権限に属する種の鳥獣の捕獲許可に係る事務については、当該種の生息数及び分布等を踏まえた広域的な見地からの必要性並びに市町における鳥獣の保護管理の実施体制の整備状況等を勘案し、対象とする市町や種を限定した上で、適切に市町長に委譲し、特定計画との整合等、制度の円滑な運営が図られるよう努めるものとする。
また、(9)に示す場合及び法第12条に基づき狩猟の禁止又は制限がなされている絶滅のおそれのある地域個体群についての捕獲許可に係る権限を市町長に委譲する場合等、委譲後特に慎重な保護管理が求められる場合については、当該市町における十分な判断体制の整備等に配慮するものとする。
知事は、捕獲許可に係る権限を市町長に委譲する場合は、法、規則、第11次基本指針及び第11次鳥獣保護事業計画に従った適切な業務の施行及び知事に対する許可事務の執行状況報告が行われるよう助言するものとする。
なお、捕獲等又は採取等を行う区域が多数の市町に及ぶ場合には、知事が許可するものとする。

(6) 捕獲実施に当たっての留意事項

捕獲等又は採取等の実施に当たっては、実施者に対し錯誤捕獲や事故の発生防止に万全の対策を講じさせるとともに、事前に関係地域住民等への周知を図らせるものとする。

また、わなの使用に当たっては、以下の事項について措置されるようにする。

- ① 法第9条第12項に基づき、猟具ごとに、住所、氏名、電話番号、許可年月日及び許可番号、捕獲目的並びに許可有効期間を記載した標識の装着等を行うものとする。ただし、捕獲に許可を要するネズミ・モグラ類の捕獲等の場合において、猟具の大きさ等の理由で用具ごとに標識を装着できない場合においては、猟具を設置した場所周辺に立て札等で標識を設置する方法によることもできるものとする。
- ② ツキノワグマの生息地域であって錯誤捕獲のおそれがある場合については、地域の実情を踏まえつつ、ツキノワグマが脱出可能な脱出口を設けたはこわなや囲いわなの使用に努めるよう指導するものとする。また、ツキノワグマの錯誤捕獲に対して迅速かつ安全な放獣が実施できるように、放獣体制等の整備に努めるものとする。

(7) 捕獲物又は採取物の処理等

捕獲物等については、鉛中毒事故等の問題を引き起こすことのないよう、原則として持ち帰ることとし、やむを得ない場合は生態系に影響を与えないような適切な方法で埋設することにより適切に処理し、山野に放置することのないよう指導するものとする（適切な処理が困難な場合又は生態系に影響を及ぼすおそれが軽微である場合として規則第19条で定められた場合を除く。）。さらに、捕獲物等が鳥獣の保護管理に関する学術研究及び環境教育等に利用できる場合は努めてこれを利用するよう指導するものとする。

また、捕獲物等は、違法なものとして誤認されないようにする。特に、クマ類及びカモシカについては、違法に輸入されたり国内で密猟された個体の流通を防止する観点から、目印標（製品タグ）の装着により、国内で適法に捕獲された個体であることを明確にさせるものとする。

なお、捕獲個体を致死させる場合は、できる限り苦痛を与えない方法によるよう指導するものとする。

さらに、錯誤捕獲した個体については原則として所有及び活用はできず、放鳥獣を行うことについてあらかじめ申請者に対して十分周知を図るものとする。

ただし、錯誤捕獲された外来鳥獣等の放鳥獣は適切ではないことから、生態系等に被害を及ぼしている外来鳥獣等が捕獲される可能性がある場合には、あらかじめ捕獲申請を行うよう指導し、適切に対応するよう努めることとする。

(8) 捕獲等又は採取等の情報の収集

鳥獣の保護管理の適正な推進を図る上で必要な資料を得るため適当と認める場合には、捕獲等又は採取等の実施者に対し、実施した地点、日時、種名、性別、捕獲物又は採取物、捕獲努力量等についての報告を、必要に応じ写真又はサンプルを添付させる等して求めるものとする。また、錯誤捕獲の情報についても収集に努める。

(9) 保護の必要性が高い種又は地域個体群に係る捕獲許可の考え方

生息数が少ない等保護の必要性が高い種又は地域個体群に係る捕獲許可は特に慎重に取り扱うものとし、継続的な捕獲が必要となる場合は、生息数や生息密度の推定に基づき、捕獲数を調整する等、適正な捕獲が行われるよう図るものとする。このような種については、有害鳥獣捕獲と紛らわしい形態を装った不必要な捕獲等の生じることのないように各方面を指導するとともに、地域の関係者の理解の下に、捕獲した個体を被害が及ぶおそれの少ない地域へ放鳥獣させる等、生息数の確保に努めることも検討するものとする。

3 学術研究を目的とする場合

それぞれの事由ごとの許可範囲については、原則として次の基準による。

(1) 学術研究

(第10表)

許可権者	許 可 基 準						
	研究の目的及び内容	許可対象者	鳥獣の種類・数	期間	区域	方法	捕獲等又は採取等後の措置
知事	<p>次の1) から4)までのいずれにも該当するものであること。</p> <p>1) 主たる目的が、理学、農学、医学又は薬学等に関する学術研究であること。</p> <p>ただし、学術研究が単に付随的な目的である場合は、学術研究を目的とした行為とは認めない。</p> <p>2) 鳥獣の捕獲等又は鳥類の卵の採取を行う以外の方法では、その目的を達成することができないと認められること。</p> <p>3) 主たる内容が鳥獣の生態、習性、行動、食性又は生理等に関する研究であること。</p> <p>また、長期にわたる研究の場合は、全体計画が適正なものであること。</p> <p>4) 研究により得られた成果が、学会又は学術誌等により、原則として、一般に公表されるものであること。</p>	<p>理学、農学、医学、薬学等に関する調査研究を行う者又はこれらの者から依頼を受けた者</p>	<p>必要最小限の種類又は数。(羽、頭、個)。ただし、外来鳥獣等に関する学術研究を目的とする場合には、適切な種類又は数(羽、頭、個)とする。</p>	<p>1年以内</p>	<p>必要最小限の区域とし、原則として、特定猟具使用禁止区域及び特定猟具使用制限区域(当該区域において特定猟具に指定されている猟具を使用する場合に限る。)並びに規則第7条第1項第7号イからチまでに掲げる区域は除く。ただし、特に必要が認められる場合はこの限りでない。</p>	<p>次の各号に掲げる条件に適合するものであること。ただし、他に方法がなく、やむを得ない事由がある場合は、この限りでない。</p> <p>1) 法第12条第1項又は第2項に基づき禁止されていないこと。</p> <p>2) 殺傷又は損傷(以下「殺傷等」という。)を伴う捕獲方法の場合は、研究の目的を達成するために必要最小限と認められるものであること。</p>	<p>原則として、次の各号に掲げる条件に適合するものであること。</p> <p>1) 殺傷等を伴う場合は、研究の目的を達成するために必要最小限と認められるものであること。</p> <p>2) 個体識別のため、指切り、ノーズタグの装着等の鳥獣の生態に著しい影響を及ぼすような措置を行わないこと。</p> <p>3) 電波発信機、足環の装着等の鳥獣への負荷を伴う措置については、目的を達成するために当該措置が必要最小限であると認められるものであること。</p> <p>なお、電波発信機を装着する場合には、原則として、必要期間経過後短期間のうちに脱落するものであること。また、装着する標識が鳥獣観察情報の収集に広く活用できる場合には、標識の情報を公開するよう努めること。</p>

(2) 標識調査(環境省足環を装着する場合)

(第11表)

許可権者	許 可 基 準				
	許可対象者	鳥獣の種類・数	期間	区域	方法
知事	<p>国若しくは都道府県の鳥獣行政事務担当職員又は国若しくは都道府県より委託を受けた者(委託を受けた者から依頼された者を含む。)</p>	<p>原則として、標識調査を主たる業務として実施している者においては、鳥類各種各2,000羽以内、3年以上継続して標識調査を目的とした捕獲許可を受けている者においては、同各1,000羽以内、その他の者においては同各500羽以内。ただし、特に必要が認められる種については、この限りでない。</p>	<p>1年以内</p>	<p>原則として、規則第7条第1項第7号イからチまでに掲げる区域は除く。ただし、特に必要が認められる場合は、この限りでない。</p>	<p>原則として、網、わな又は手捕とする。</p>

4 鳥獣による生活環境、農林水産業又は生態系に係る被害の防止を目的とする場合

(1) 有害鳥獣捕獲の基本的考え方

- ・鳥獣による被害が現に生じているか又はそのおそれがある場合で、原則として被害防除の実施によっても被害が防止できないときに、その防止及び軽減を図るために行うものとする。特に、外来鳥獣等については、当該鳥獣を根絶又は抑制するため、積極的な有害鳥獣捕獲を図るものとする。
- ・被害防除と有害鳥獣捕獲を円滑に推進するため、全県的な連絡協議会を開催する。

(2) 予察捕獲

① 許可基準

- ・予察による有害鳥獣捕獲（以下、「予察捕獲」という。）は、常時捕獲を行い、生息数を低下させる必要があるほど強い害性が認められる場合のみ許可するものとする。ただし、外来鳥獣等については、この限りでない。
- ・予察捕獲は通常、有害鳥獣捕獲を目的とする捕獲許可として取り扱うものであるが、特定計画の対象地域においては、予察捕獲による捕獲は特定鳥獣の数の調整に資するものでもあるから、原則として特定鳥獣の数の調整を目的とする捕獲許可として取り扱うものとする。

② 予察表の作成

- ・鳥獣の種類別及び地域別による被害発生予察表を作成するものとする。
- ・作成に当たっては、過去3年間の鳥獣による被害の発生状況及び鳥獣の生息状況について、地域の実情に応じ、学識経験者等科学的見地から適切な助言及び指導を行うことのできる者の意見を聴取しつつ、調査及び検討を行うものとする。
- ・予察表においては、被害発生のおそれのある地区ごとに、農林水産物の被害や作付けの状況、鳥獣の生息状況の推移等を勘案し、被害・影響の発生地域、時期等の予察をするものとする。

③ 被害発生の現状

過去の被害発生状況をもとにした加害鳥獣名、被害農林水産物等、被害発生時期及び被害発生地域は次の予察表に示すとおりである。

(第12表)

加害鳥獣名	被害農林水産物等	被害発生時期												被害発生地域			
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
カラス	水稻、豆類 野菜、果樹 送電線、航空機、人	←														→	県内全域
カモ類	水稻、野菜 牧草	←														→	白山市、野々市市、金沢市、かほく市、津幡町、内灘町、志賀町、穴水町、能登町
スズメ	水稻、野菜 果樹	←									→						川北町、金沢市、かほく市、羽咋市、穴水町、能登町
サギ類	水稻、野菜	←								→							白山市、かほく市、羽咋市、志賀町、輪島市、穴水町、能登町
ドバト	水稻、豆類 野菜、果樹 航空機	←														→	小松市、加賀市、能美市、川北町、白山市、金沢市、かほく市、輪島市
キジ	野菜	←								→							金沢市、かほく市
ムクドリ	果樹、水稻 野菜、航空機	←														→	小松市、加賀市、能美市、川北町、白山市、金沢市、かほく市
ヒヨドリ	果樹			←						→							珠洲市、能登町
ハクチョウ	野菜										←					→	羽咋市
キジバト	農作物全般	←														→	白山市
サル	野菜、果樹	←											→				加賀市、能美市、かほく市
タヌキ	野菜、果樹	←											→				小松市、加賀市、能美市、白山市、かほく市、内灘町、羽咋市、志賀町、宝達志水町、輪島市、穴水町、能登町
イノシシ	水稻、野菜 豆類、人、法 面、水路	←														→	県内全域(野々市市、川北町除く)
アナグマ	果樹、野菜 水稻	←											→				小松市、加賀市、能美市、白山市、輪島市、珠洲市、能登町
アライグマ	野菜	←											→				小松市、加賀市、能美市、白山市
ノウサギ	野菜、果樹 杉	←										→		←		→	かほく市、津幡町、羽咋市
ネズミ	野菜	←									→						金沢市、かほく市、内灘町、能登町
カモシカ	野菜、造林木	←														→	白山市、金沢市
ハクビシン	野菜、果樹	←											→				小松市、加賀市、能美市、白山市、野々市市、金沢市、内灘町、志賀町、宝達志水町、珠洲市、穴水町、能登町
ニホンジカ	野菜、造林木	←														→	白山市、金沢市、かほく市、宝達志水町
キツネ	野菜	←										→					珠洲市

(3) 有害鳥獣捕獲についての許可基準の設定

① 許可対象者

- ・許可対象者は、原則として有害鳥獣による被害を受けた者から依頼を受けた市町又は法第9条第8項の規定に基づき環境大臣の定める法人(以下「農林水産業団体」という。)とする。ただし、自己の所有地等における被害に係る有害鳥獣捕獲で、各地域の実情により市町又は農林水産業団体による捕獲によりがたい場合は、当該所有者又は当該所有者から依頼を受けた者に対しても許可することができるものとする。
- ・許可対象者は、原則として、捕獲方法に応じた狩猟免許を所持している者とし、法人及び団体にあつては、当該有害鳥獣捕獲従事者が捕獲方法に応じた狩猟免許を所持している法人及び団体とする。ただし、法人及び団体において、銃器を使用しない方法による捕獲の場合は、従事者の中に捕獲方法に応じた狩猟免許を所持する者が含まれ、かつ、当該法人及び団体が従事者に対して講習会を実施するなどにより捕獲技術、安全性等が確保されていると認められる場合に限り、従事者の中に当該免許を所持していない者を補助者として含めることができるものとし、実施に当たっては、市町、(社)石川県猟友会等関係機関と十分調整するものとする。
- ・上記にかかわらず、次に掲げる場合は、狩猟免許を所持していない者に対しても許可することができるものとし、実施に当たっては、市町、(社)石川県猟友会等関係機関と十分調整するものとする。
 - ア 住宅等の建物内における被害を防止する目的で、当該建物内において、小型の箱わな若しくはつき網を用いて又は手捕りにより、小型の鳥獣を捕獲する場合
 - イ 農林業被害の防止の目的で農林業者が自らの事業地内において、囲いわなを用いて鳥獣を捕獲する場合
 - ウ 捕獲箱により、ドバトを捕獲又は卵を採取する場合
 - エ 電気事業法(昭和39年法律第170号)第2条第1項第10号に定める電気事業者が、自らが設置した電気工作物上において、手捕りにより、カラス等を捕獲又は卵を採取する場合

② 鳥獣の種類・数

- ・許可対象鳥獣の種類は、現に被害を生じさせ、又はそのおそれのある種とする。ただし、特定鳥獣については、原則として「個体数調整の目的」の捕獲とし、緊急時等のやむを得ない場合に限り有害鳥獣捕獲の対象とする。
- ・許可対象鳥獣の数は、外来鳥獣等を除き、被害地における有害鳥獣の生息状況等を勘案して定めるものとし、捕獲期間中、1許可当たり概ね第13表の数量以内とする。
- ・保護上の要請が高い鳥獣の種又は地域個体群に係る捕獲許可は慎重に取り扱うこととし、継続的な捕獲が必要となる場合は、科学的で明確な保護管理の目標に基づき計画的に行うものとする。

(第13表)

許可権者	鳥獣名	許可1件あたりの許可数量
市町長	カルガモ	200以内
	キジバト	50以内
	ドバト	200以内
	スズメ	200以内
	ムクドリ	200以内
	カラス	200以内
知事又は市町長	その他の鳥獣	必要最小限度

③ 期間

有害鳥獣捕獲の実施期間は、最も効果的に実施できる時期とする。ただし、狩猟期間及びその前後15日間並びに鳥獣の繁殖期においては、緊急やむを得ない場合を除き、原則として許可しないものとする。

④ 区域

有害鳥獣捕獲を実施する区域は、被害の発生状況に応じ、その対象となる鳥獣の行動圏域を踏まえて被害の発生地域及びその隣接地等を対象とするものとし、その範囲は必要かつ適切な区域とする。

⑤ 方法

- ・有害鳥獣捕獲の実施方法については、被害の発生状況に応じ、その対象となる鳥獣の行動を踏まえ、安全かつ的確な方法によるものとする。
- ・空気銃を使用した捕獲等は、止めさしを除き、大型獣類については認めない。
- ・わなを使用した捕獲等は、結果的に餌付けとなって被害を発生させることがないように指導するものとする。

(4) 有害鳥獣捕獲の適正化のための体制の整備等

① 方針

- ・市町長は、石川県有害鳥獣捕獲許可事務取扱要領に基づき、管内における鳥獣の被害を防止するため、県及び(社)石川県猟友会長と協議し、捕獲隊を編成する。
- ・地域の実情に応じて鳥獣被害対策実施隊（鳥獣被害防止特措法第9条第1項に規定する鳥獣被害対策実施隊をいう。以下同じ。）の編成や連携について、市町の指導に努めるものとする。
- ・市町と協力して、捕獲技術等の向上のため、(社)石川県猟友会と連携しながら講習会等を実施する。

② 捕獲隊編成指導事項の概要

- ・捕獲は、隊若しくは班による団体捕獲を原則とし、捕獲従事者数は被害の発生状況等を考慮し必要最小限とする。
- ・捕獲隊は必要に応じ捕獲班を置くことができるものとし、1隊又は1班の人員は原則として2名以上20名以内とする。
- ・捕獲隊員は、狩猟免許を有する者で、原則として5年以上の狩猟経験を有し、過去3か年に鳥獣関係法令等に違反したことがなく、かつ狩猟災害制度に加入していて、随時出勤可能な者とする。ただし、網猟免許又はわな猟免許を有する者については、網猟又はわな猟の経験を積んだ者で、過去3年間に鳥獣関係法令に違反したことがない者でかつ狩猟災害に関する共済、保険等に加入していて、随時出勤可能な者とする。
- ・捕獲隊員には、銃器を使用しない方法による捕獲の場合に限り、捕獲従事者の中に網猟免許又はわな猟免許を所持する者がいる場合は、これらの免許を所持していない者を補助者として含めることができるものとし、実施に当たっては、市町、(社)石川県猟友会等関係機関と十分調整するものとする。この場合、市町はこれらの免許を所持しない者に対し、講習会を実施するなど、捕獲技術、安全性が確保されるよう措置するものとする。
- ・捕獲に従事するときは、捕獲隊員である旨を表示する腕章を帯用するとともに、捕獲周辺地域住民に捕獲による危険防止の周知徹底を図るものとする。

5 特定計画に基づく数の調整を目的とする場合

(1) 許可対象者

個体数調整捕獲の許可対象者は、保護管理対象地域の市町とする。

(2) 鳥獣の種類・数

鳥獣の種類・数は、特定計画の目標達成のために適切かつ合理的な数とする。

(3) 期間

個体数調整捕獲の実施期間は、最も効果的に実施できる時期とする。ただし、狩猟期間及びその前後15日間においては、緊急やむを得ない場合を除き、原則として許可しないものとする。

(4) 区域

個体数調整捕獲の区域は、各特定計画に定めた保護管理対象地域とする。

(5) 方法

個体数調整捕獲の方法は、銃器によるものとする。ただし、銃器を使用することが適当でない場合は、わなによることができる。

6 その他特別の事由の場合

それぞれの事由ごとの許可範囲については、原則として次の基準による。

(第14表)

捕獲の目的	許可権者	許可基準					備考
		許可対象者	鳥獣の種類・数	期間	区域	方法	
鳥獣の保護に係る行政事務の遂行の目的	知事	国又は地方公共団体の鳥獣行政事務担当職員(出先の機関の職員を含む)	必要と認められる種類及び数(羽、頭、個)	1年以内	申請者の職務上必要な区域	原則として法第12条第1項又は第2項で禁止されている猟法は認めない。ただし、他に方法がなく、やむを得ない事由がある場合はこの限りでない。	
傷病により保護を要する鳥獣の保護の目的	知事	国又は地方公共団体の鳥獣行政事務担当職員(出先の機関の職員を含む)、鳥獣保護員、その他特に必要と認められる者	必要と認められる種類及び数(羽、頭、個)	1年以内	必要と認められる区域	原則として法第12条第1項又は第2項で禁止されている猟法は認めない。ただし、他に方法がなく、やむを得ない事由がある場合はこの限りでない。	
博物館、動物園その他これに類する施設における展示の目的	知事	博物館、動物園等の公共施設の飼育・研究者又はこれらの者から依頼を受けた者	必要最小限の種類又は数(羽、頭、個)	6か月以内	原則として、規則第7条第1項第7号イからチに掲げる区域は除く。ただし、特に必要と認められる場合はこの限りでない。	原則として法第12条第1項又は第2項で禁止されている猟法は認めない。ただし、他に方法がなく、やむを得ない事由がある場合はこの限りでない。	
養殖している鳥類の過度の近親交配の防止	知事	鳥類の養殖を行っている者又はこれらの者から依頼を受けた者	人工養殖が可能と認められる種類で必要最小限の数(羽、頭、個)とし、放鳥を目的とする場合は対象放鳥地の個体とする。	6か月以内	原則として、県内(規則第7条第1項第7号イからチに掲げる区域は除く)。ただし、特に必要と認められる場合は、この限りでない。	網、わな又は手捕	
鵜飼漁業への利用	知事	鵜飼漁業者又はこれらの者から依頼を受けた者	必要最小限	6か月以内	原則として、規則第7条第1項第6号イからチまでに掲げる区域は除く。ただし、特に必要と認められる場合は、この限りでない。	手捕。ただし、他に方法がなく、やむを得ない事由がある場合は、この限りでない。	

捕獲の目的	許可権者	許可基準					備考
		許可対象者	鳥獣の種類・数	期間	区域	方法	
伝統的な祭礼行事等に用いる目的	知事	祭礼行事、伝統的生活様式の継承に係る行為（いずれも、現在まで継続的に実施されてきたものに限る。）の関係者又はこれらの者から依頼を受けた者（登録狩猟等他の目的による捕獲又は採取により、当該行事等の趣旨が達成できる場合を除く。）	必要最小限。捕獲し、行事等に用いた後は放鳥獣とする（致死させる事によらなければ行事等の趣旨を達成できない場合を除く。）	30日以内	原則として、規則第7条1項第7号イからチまでに掲げる区域は除く。ただし、特に必要が認められる場合は、この限りでない。	原則として、法第12条第1項又は第2項で禁止されている猟法は認めない。ただし、他の方法がなく、やむを得ない事由がある場合は、この限りでない。	
その他の特別な事由	知事	捕獲等又は採取等の目的に応じて個々の事例ごとに判断するものとする。なお、環境教育の目的、環境影響評価のための調査目的、被害防除対策事業等のための個体の追跡を目的とした捕獲等又は採取等は、学術研究に準じて取り扱うものとする。特に、環境影響評価のための調査を目的とする捕獲等については、当該調査結果の使途も考慮した上で判断するものとする。					

第五 特定猟具使用禁止区域、特定猟具使用制限区域及び猟区に関する事項

1 特定猟具使用禁止区域の指定

(1) 方針

現在までの銃猟に伴う危険を予防する区域は都市近郊の農地、河川敷、ゴルフ場等の一般住民が利用する地域としている。銃猟により、事故発生が予想される地域、特に都市計画上の市街化区域などの市街地や人口集中地区については関係機関と調整の上、事故防止と静謐さの確保のため積極的に指定する。

また、学校や通学路の周辺、子どもの遊び場となっているような空き地及びその周辺、自然観察路及び野外レクリエーション等の目的のため利用する者が多いと認められる場所、その他わな猟による事故発生のおそれの高い区域については、わな猟に伴う危険を予防するため関係機関、土地所有者・占有者との調整を行いつつ、必要に応じて特定猟具使用禁止区域の指定を進める。

(2) 特定猟具使用禁止区域指定計画

(第15表)

		既指定特定猟具使用禁止区域(A)		本計画期間に指定する特定猟具使用禁止区域						本計画期間に区域拡大する特定猟具使用禁止区域						
				24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	計(B)	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	計(C)	
銃猟に伴う危険を予防するための区域	箇所	66	箇所	1						1						0
	面積	23,394ha	変動面積	316ha						316						0
わな猟に伴う危険を予防するための区域	箇所		箇所							0						0
	面積	ha	変動面積	ha						0						0

		本計画期間に区域減少する特定猟具使用禁止区域						本計画期間に廃止または期間満了により消滅する特定猟具使用禁止区域						計画期間中の増減(減:△)*	計画終了時の特定猟具使用禁止区域**	
		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	計(D)	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	計(E)			
銃猟に伴う危険を予防するための区域	箇所						0							0	1	67
	面積						0							0	316	23,710
わな猟に伴う危険を予防するための区域	箇所						0							0	0	0
	面積						0							0	0	0

* 箇所数については (B)-(E)

面積については (B)+(C)-(D)-(E)

** 箇所数については (A)+(B)-(E)

面積については (A)+(B)+(C)-(D)-(E)

ただし、市町から新たな指定や区域拡大の要望があった場合は、必要に応じて指定を進める。

(3) 特定猟具使用禁止区域指定内訳

(第16表)

年度	銃猟に伴う危険を予防するための区域				
	特定猟具使用禁止区域指定所在地	特定猟具使用禁止区域名称(特定猟具名)	指定面積	指定期間	備考
平成24年度	加賀市宮町	橋立地区宮町周辺(銃器)	122ha	24年11月1日から 34年10月31日まで	再指定
	加賀市分校町	分校地区周辺(銃器)	60	24年11月1日から 34年10月31日まで	再指定
	加賀市山田町	山田(銃器)	450	24年11月1日から 34年10月31日まで	再指定
	小松市平面町	八丁川(銃器)	490	24年11月1日から 34年10月31日まで	再指定
	小松市佐美町	佐美(銃器)	114	24年11月1日から 34年10月31日まで	再指定
	小松市那谷町	栗津(銃器)	374	24年11月1日から 34年10月31日まで	再指定
	小松市古府町	国府(銃器)	138	24年11月1日から 34年10月31日まで	再指定
	能美市	岩内宮竹(銃器)	660	24年11月1日から 34年10月31日まで	再指定
	金沢市大浦町	大浦(銃器)	85	24年11月1日から 34年10月31日まで	再指定
	河北郡内灘町	内灘海岸(銃器)	949	24年11月1日から 34年10月31日まで	再指定
	かほく市	高松・宇ノ気(銃器)	183	24年11月1日から 34年10月31日まで	再指定
	鹿島郡中能登町	長曾川(銃器)	316	24年11月1日から 34年10月31日まで	新設
計		12箇所	3,941		
平成25年度	加賀市日谷町	日谷(銃器)	300	25年11月1日から 35年10月31日まで	再指定
	加賀市永井町	永井(銃器)	324	25年11月1日から 35年10月31日まで	再指定
	加賀市宮地町	金明(銃器)	133	25年11月1日から 35年10月31日まで	再指定
	小松市大杉町	大杉(銃器)	360	25年11月1日から 35年10月31日まで	再指定
	白山市	手取川第3ダム(銃器)	80	25年11月1日から 35年10月31日まで	再指定
	金沢市示野町	示野(銃器)	352	25年11月1日から 35年10月31日まで	再指定
	金沢市、かほく市、河北郡内灘町、津幡町	河北潟(銃器)	1,540	25年11月1日から 35年10月31日まで	再指定
	七尾市多根町	多根(銃器)	42	25年11月1日から 35年10月31日まで	再指定
計		8箇所	3,131		
平成26年度	加賀市	柴山潟(銃器)	270	26年11月1日から 36年10月31日まで	再指定
	小松市下栗津町	下栗津(銃器)	32	26年11月1日から 36年10月31日まで	再指定
	能美市	徳山湯屋(銃器)	620	26年11月1日から 36年10月31日まで	再指定

年度	銃猟に伴う危険を予防するための区域				
	特定猟具使用禁止区域指定所在地	特定猟具使用禁止区域名称（特定猟具名）	指定面積	指定期間	備考
平成26年度	金沢市	専光寺(銃器)	18	26年11月1日から 36年10月31日まで	再指定
	金沢市、河北郡内灘町	金沢港湾(銃器)	453	26年11月1日から 36年10月31日まで	再指定
	七尾市田鶴浜町	田鶴浜(銃器)	130	26年11月1日から 36年10月31日まで	再指定
計		6箇所	1,523		
平成27年度	加賀市桂谷町	山代(銃器)	220	27年11月1日から 37年10月31日まで	再指定
	小松市安宅町	安宅育成(銃器)	535	27年11月1日から 37年10月31日まで	再指定
	小松市八幡町	八幡(銃器)	585	27年11月1日から 37年10月31日まで	再指定
	金沢市粟崎町	粟崎(銃器)	56	27年11月1日から 37年10月31日まで	再指定
	かほく市	紋平柿団地(銃器)	159	27年11月1日から 37年10月31日まで	再指定
	羽咋市一ノ宮町	一ノ宮(銃器)	68	27年11月1日から 37年10月31日まで	再指定
	七尾市	白浜(銃器)	55	27年11月1日から 37年10月31日まで	再指定
計		7箇所	1,678		
平成28年度	能美市	根上西部(銃器)	575	28年11月1日から 38年10月31日まで	再指定
	白山市	美川地区(銃器)	220	28年11月1日から 38年10月31日まで	再指定
	羽咋市千里浜	千里浜(銃器)	130	28年11月1日から 38年10月31日まで	再指定
計		3箇所	925		
計		36箇所	11,198		

(注) 備考欄には「新設」「再指定」の別を記入する

2 特定猟具使用制限区域の指定

該当なし

3 猟区設定のための指導

県内に設定されている猟区は、大聖寺捕鴨猟区1箇所であり、今後とも設定者に対し適正な管理運営指導を行い、秩序ある管理された狩猟が実現されるよう、規定に基づき管理運営に関する報告を義務づける。

4 指定猟法禁止区域

該当なし

第六 特定鳥獣保護管理計画の作成に関する事項

1 特定鳥獣保護管理計画の作成に関する方針

特定計画は、それぞれの地域において対象とする鳥獣の地域個体群について、科学的・計画的な保護管理を広域的・継続的に推進し、地域個体群の長期にわたる安定的な保護管理を図ることにより、人と鳥獣との適切な関係の構築に資することを目的として作成する。

作成に当たっては、科学的知見を踏まえながら専門家や地域の幅広い関係者の合意を図りつつ明確な保護管理の目標を設定し、個体数管理、生息環境管理及び被害防除対策の保護管理事業を総合的に講じることとする。
(第17表)

計画作成年度	計画作成の目的	対象鳥獣の種類	計画の期間	対象区域	備考
平成23年度	農林業及び生活に対する被害が顕著であるが、生息分布や生息数が限られ、その管理に配慮が必要なニホンザルを対象として、個体群管理の目標、地域区分等を設定し、これに基づき生息環境管理、個体数管理、被害防除対策等の事業を実施することにより今後、人と野生動物が共存していくため、計画的な保護管理を推進する。	ニホンザル	H24. 4. 1 ～H29. 3. 31	小松市、白山市、 金沢市	
平成23年度	生息域が拡大傾向にあり、それに伴い農林業被害が拡大しているイノシシについて、専門家や関係者の協力を得ながら、その生息状況及び被害発生状況を正確に把握し、個体数管理・被害防除対策等の総合的な実施を目指す。	イノシシ	H24. 4. 1 ～H29. 3. 31	県内全域	
平成24年度	農林業及び生活に対する被害が顕著であるが、生息分布や生息数が限られ、その管理に配慮が必要なツキノワグマを対象として、個体群管理の目標、地域区分等を設定し、これに基づき生息環境管理、個体数管理、被害防除対策等の事業を実施することにより今後、人と野生動物が共存していくため、計画的な保護管理を推進する。	ツキノワグマ	H25. 4. 1 ～H30. 3. 31	加賀市、小松市、 能美市、川北町、 白山市、野々市市、 金沢市、津幡町、 かほく市、内灘町、 宝達志水町、羽咋 市、中能登町、七 尾市	白山・奥美濃 地域ツキノ ワグマ広域 保護管理指 針(平成21 年3月策定)
平成24年度	県内への侵入と生息域の拡大が危惧されるニホンジカについて、専門家や関係者の協力を得ながら、その生息状況及び被害発生状況を正確に把握し、個体数管理・被害防除対策等の総合的な実施を目指す。	ニホンジカ	H25. 4. 1 ～H30. 3. 31	県内全域	

2 実施計画の作成に関する方針

特定計画を効果的・効率的に実施するため、必要に応じて市町において実施計画を作成するよう指導する。

第七 鳥獣の生息の状況の調査に関する事項

1 基本方針

科学的知見に基づいた鳥獣の保護管理を行うため、継続的かつ計画的に生息状況等調査を実施し、情報の集積に努める。

2 鳥獣保護対策調査

(1) 方針

県内における鳥獣の生息分布及び希少鳥獣等の調査、ガンカモ科鳥類の生息状況調査を実施し、効果的な保護対策に資するものとする。

(2) 鳥獣生息分布調査

県内に生息する鳥獣の種類等をアンケート調査、狩猟捕獲報告、既存資料の活用などにより、必要に応じて調査するものとする。

(3) 希少鳥獣等保護調査

希少鳥獣又はこれに準ずる鳥獣、石川県指定希少野生動植物種に指定されているチュウヒ、コアジサン等の分布、生息数、生息環境、生態等を調査するものとする。

(4) ガン・カモ・ハクチョウ類一斉調査

ガン・カモ科鳥類の渡来、越冬状況を明らかにするため、県内の主要箇所では生息状況調査を実施する。

(第18表)

対象地域名	調査年度	調査方法・内容	備考
県内13箇所 我谷ダム、片野鴨池、柴山 潟、木場潟、手取川、犀 川(中流、下流)、河北潟、 邑知潟、七尾南湾、七尾 西湾、雁の池、正院	平成24年度 ～平成28年度	調査日 毎年1月中旬 各地域ごとに観測定点を定め、種類別羽 数をカウントする。	日本野鳥の会 石川に委託

3 鳥獣保護区等の指定・管理等調査

鳥獣保護区等の指定期間、更新の有無等、将来の効果的な指定に資するための調査を実施する。

(第19表)

対象保護区等の名称	調査年度	調査の種類・方法	備考
大聖寺	24年度	ロードサイドカウント法により、鳥獣保護区内及び 隣接の猟野の生息種生息数の状況等を調査する。	
杉水	〃		
鈴ヶ岳	〃		
キゴ山	〃		
卯辰山	〃		
河北潟	〃		
河北海岸	〃		
津幡	〃		
和倉	〃		
小丸山	〃		
甲	〃		
奥七海	〃		
山代温泉	25年度		
火打谷	〃		
鶴来	26年度		
眉丈山	〃		
一ノ宮	〃		
深見	27年度		
大日山	28年度		

4 狩猟対策調査

(1) 方針

狩猟資源の確保を図るため、捕獲地の環境及び放鳥地と捕獲地との関連をさぐり、適正な狩猟を推進するための資料とする。

(2) 狩猟鳥獣生息調査

主要な狩猟鳥獣の生息状況及び捕獲等の状況を調査する。調査の実施に当たっては、狩猟者から、捕獲等の位置情報、捕獲個体の性別、捕獲年月日、捕獲努力量等の捕獲状況の報告を収集すること等により、捕獲等の状況の把握に努めるものとする。

(第20表)

対象鳥獣	調査年度	調査内容、調査方法	備考
キジ ヤマドリ	平成24年度 ～平成28年度	出会い数調査を実施する。	
ツキノワグマ イノシシ		狩猟者からの捕獲報告により、分布状況を把握する。 必要に応じて、個体群の動態を把握するためのアンケート調査を実施する。	
ニホンジカ		狩猟者からの捕獲報告により、分布状況を把握する。 出猟カレンダーにより、捕獲等の位置情報や、捕獲個体の性別、捕獲年月日、捕獲努力量等のなどを把握する。	

(3) 放鳥効果測定調査

放鳥事業を効果的に行うため、雄キジに標識をつけて放鳥し、捕獲報告を受けることにより、放鳥地域での定着状況を明らかにする。

5 有害鳥獣対策調査

(1) 方針

鳥獣と農林作物等の因果関係を明らかにし、被害防除方法確立の基礎資料とするため、有害性の高い鳥獣について生息実態等の調査を行う。

(2) 調査の概要

(第21表)

対象鳥獣名	調査年度	調査内容、調査方法	備考
カワウ	平成24年度～ 平成28年度	ねぐらモニタリング調査	

第八 鳥獣保護事業の実施体制に関する事項

1 鳥獣行政担当職員

(1) 方針

研修等により専門的知識の向上を図るとともに、情報交換を密にして鳥獣保護事業の実施体制の充実に努める。

(2) 設置計画

(第22表)

区分	現況			計画終了時			備考
	専任	兼任	計	専任	兼任	計	
本 庁 (環境部自然環境課)	2	1	3	2	1	3	・鳥獣行政の企画、立案、計画指導、その他 ・鳥獣保護行政全般に関すること
出 先 (農林総合事務所)		各1	5		各1	5	・鳥獣保護区等管理 ・狩猟者登録(県内)

(3) 研修計画

(第23表)

名称	主催	時期	回数/年	規模	人数	内容・目的
鳥獣行政担当者会議 (農林総合事務所担当者会議)	県	4、10月	2	全県	10	鳥獣保護区等指定事務、狩猟取締、狩猟者登録事務打合せ
鳥獣行政担当者会議 (市町担当者会議)	県	5～8月	1	全県	38	鳥獣保護事業関係打合せ
中部7県鳥獣行政 担当者会議	7県	6月	1	7県	2	中部7県合同の事例研究・情報交換
野生生物保護行政 担当者会議	国	11月、3月	2	全国	2	国の指針、執行事務の質疑・応答
野生生物保護管理研修	国	10月	1	全国	2	野生生物との共生に必要な実務研修

2 鳥獣保護員

(1) 方針

地域の特性に応じた鳥獣保護行政を進めるため、鳥獣の保護管理に関する専門的知識をもつ鳥獣保護員を適切に配置するとともに、研修等の実施により資質の向上を図る。

(2) 設置計画

(第24表)

基準設置数 (A)	平成23年度末		年度計画						
	人員(B)	充足率 (B/A)	平成 24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	計(C)	充足率 (C/A)
29人	29人	100%	29人	29人	29人	29人	29人	29人	100%

(3) 年間活動計画

(第25表)

活動内容	実施時期												備考
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
狩猟取締の実施								←				→	4～10(月2回) 14回
鳥獣保護区等の管理	←							→					11～3月(月8回) 40回
鳥獣に関する調査	←			→			↔			↔			計 54回
鳥獣保護思想の普及啓発	←			→									傷病鳥獣救護、被害対策指導等
その他の業務	←											→	

(4) 研修計画

(第26表)

名称	主催	時期	回数/年	規模	人数	内容・目的
鳥獣保護員研修会	県	5～8月	1	全県	29人	法律解釈、事例研究、情報交換
管内別研修会	各農林総合事務所	随時	4～5	管内	3～10	地域的問題について、随時実施する

3 保護管理の担い手の育成

(1) 方針

狩猟者の減少や高齢化が進んでいることに鑑み、鳥獣の保護管理の担い手の育成に努める。

(2) 狩猟者の育成

狩猟免許試験の回数の増加や、狩猟免許試験の事前講習会の開催により、新たな担い手の確保・育成に努める。

4 鳥獣保護センター等の設置

(1) 方針

いしかわ動物園において、傷病鳥獣の救護を行う。

また、トキの分散飼育を行うとともに、鳥獣の映像等の公開を通じて、県民の鳥獣保護への理解の促進を図る。

(2) 鳥獣保護センター等の施設概要

(第27表)

名称	整備年度	施設の所在地	施設の内容	利用の方針
いしかわ動物園	H11	能美市徳山町	展示施設、動物学習センター、動物リハビリセンター、ビバリウム	傷病鳥獣救護、野生動物相談等

5 取締り

(1) 方針

取締りにあたっては、鳥獣行政担当職員、鳥獣保護員及び警察との連携のもとに、違法捕獲及び狩猟事故の未然防止に努める。

(2) 年間計画

(第28表)

事項	実施時期												備考
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
猟期(外)、非狩猟鳥獣、違反猟具、違反猟法	←											→	違反多発区域、多数出猟日(週末等)を重点に巡回
カスミ網の使用・所持・販売					←		→						
無許可飼養、違法捕獲 発砲制限違反(区域、時間)	←		→				←		→			→	

6 必要な財源の確保

本計画に記載されている各種鳥獣保護事業を円滑に実施するため、その必要性や金額を十分に精査の上、必要な財源の確保に努める。また、支出に当たっても、鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する行政の各種事業の実施に対し、効果的な支出を図るものとする。

第九 その他鳥獣保護事業の実施のために必要な事項

1 鳥類の飼養登録

以下に留意しつつ、個体管理のための足環の装着等適正な管理が行われるよう努めるものとする。

愛玩飼養を目的とした飼養登録については、権限を市町に委譲しており、飼養適正化のために次の事項を指導するものとする。

- ・登録票の更新は、飼養個体と装着許可証（足環）を照合し確認した上で行うこと。
- ・平成元年度の装着許可証（足環装着）導入以前から更新されている等の長期更新個体については、羽毛の光沢や虹彩色、行動の敏捷性等により高齢個体の特徴を視認すること等により、個体のすり替えが行われていないことを慎重に確認した上で更新を行うこと。
- ・愛玩飼養を目的とした捕獲許可により捕獲された個体を譲り受けた者から届出があった場合、譲渡の経緯等を確認することにより1人が多数の飼養をする等、不正な飼養が行われないようにすること。

2 販売禁止鳥獣等

(1) 許可の考え方

販売禁止鳥獣等の販売許可に当たっては、以下の①、②のいずれにも該当する場合に許可することとする。

- ① 販売の目的が法第24条第1項及び施行規則第23条に規定する目的に適合すること
- ② 捕獲したヤマドリ等の食用品としての販売など、販売されることによって違法捕獲や捕獲物の不適切な処理が増加し個体数の急速な減少を招くなど、その保護に重大な支障を及ぼすおそれのあるものでないこと

(2) 許可の条件

販売許可証を交付する場合の条件は、販売する鳥獣の数量、所在地及び販売期間、販売した鳥獣を放鳥獣する場合の場所（同一地域個体群）等とする。

なお、販売禁止鳥獣等の販売許可は、権限を市町に委譲しており、許可の考え方及び許可の条件について適正となるよう指導するものとする。

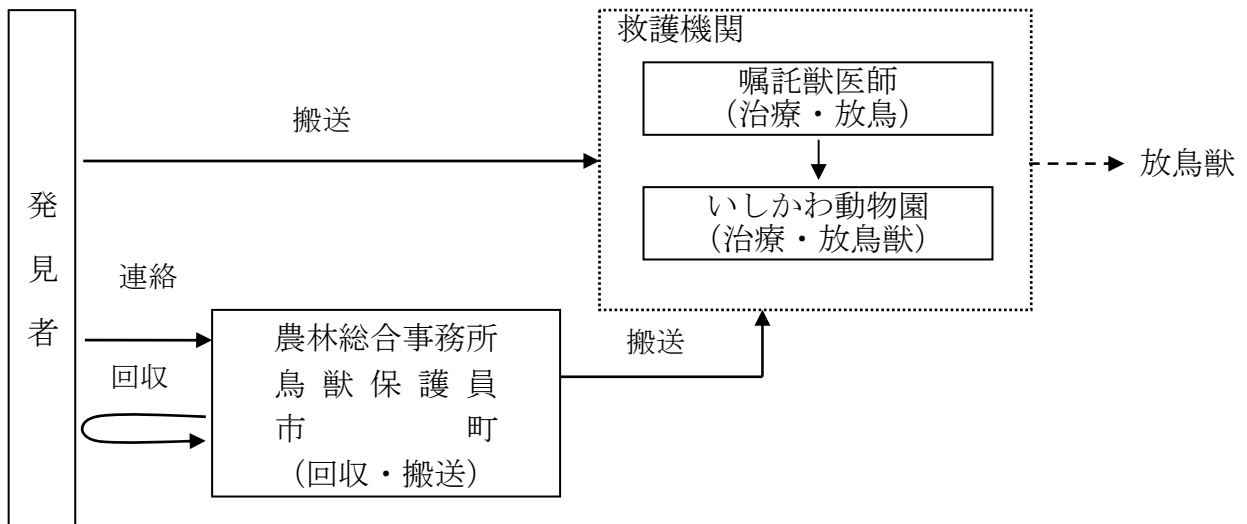
3 傷病鳥獣救護の基本的な対応

傷病鳥獣の救護については、いしかわ動物園を中心として、(社)石川県獣医師会の協力のもと治療体制を構築し傷病鳥獣の野生復帰を促進するよう努める。また、長期の療養を要する傷病鳥獣については、傷病鳥獣保護ボランティア登録者の協力を得ながら、救護制度の充実を図るものとする。

また、油汚染事故など一時的に多数の傷病鳥獣が発生した場合に備えて、関係者間の連絡体制整備を図るとともに、海鳥や海棲ほ乳類の生息状況について把握するよう努める。

なお、ヒナ及び出生直後の幼獣を傷病鳥獣と誤認して救護することのないよう、県民への周知に努める。

傷病鳥獣救護体制



4 安易な餌付けの防止

鳥獣の保護に影響を及ぼす安易な餌付けの防止に努めるとともに、パンフレットやホームページ等により普及啓発を積極的に推進するものとする。その際には、以下の点について留意するものとする。

- ・安易な餌付け行為が鳥獣に与える影響について県民の理解を得ること。
- ・観光事業者又は観光客による鳥獣への安易な餌付けの防止を図ること。餌付けを実施する際には、高病原性鳥インフルエンザ等の感染症の拡大又は伝播につながらないよう十分な配慮を行うものとする。
- ・生ごみや未収穫作物等の不適切な管理、耕作放棄地の放置等、結果として餌付けとなる行為の防止を図ること。

5 感染症への対応

野生鳥獣に人獣共通又は家畜に影響の大きい感染症が発生した場合に備えて、国及び都道府県内の関係機関との連絡体制を整備しておくものとする。

(1) 高病原性鳥インフルエンザ

人獣共通感染症であり、かつ、家畜への影響が大きいことから、「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル」等に基づきウイルス保有状況調査等を実施する体制を整備するとともに、家畜衛生部局等と連携しつつ適切な調査に努める。

また、高病原性鳥インフルエンザと野鳥との関わり、野鳥との接し方等の住民への情報提供等を適切に実施する。さらに、野鳥の異常死を早期に発見するためにも、通常時の生息状況の把握に努めるものとする。

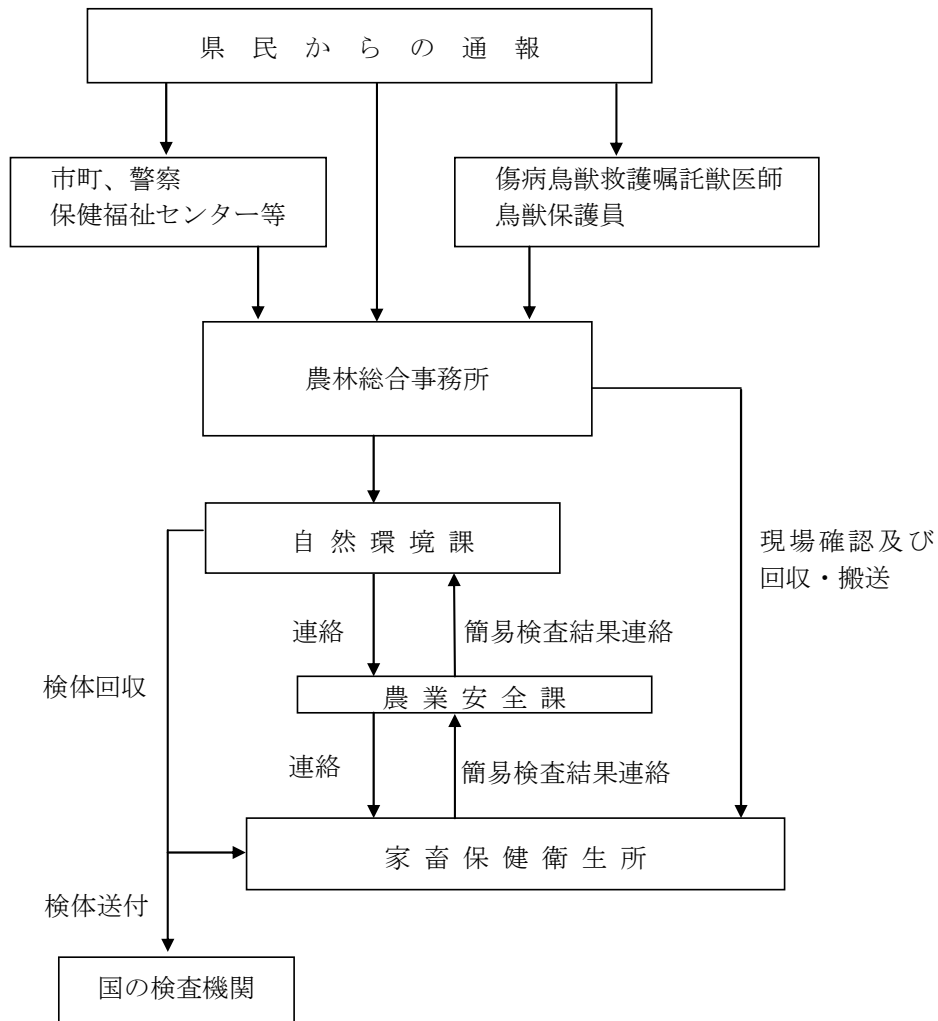
なお、高病原性鳥インフルエンザが発生した場合は、関係機関との緊密な連携を図り、迅速かつ適切に対応するとともに、県民への的確な情報提供に努める。

・野鳥のウイルス保有状況調査

(第29表)

調査対象地域	調査方法	検査方法	調査時期	回数
河北潟	ガンカモ類の糞便採取調査	遺伝子検査	毎年10月から翌年4月	計4回

鳥インフルエンザに係る死亡野鳥発見時の対応等について



(2) その他の感染症

鳥獣の異常死又は傷病鳥獣の状況等により把握に努めるものとする。特に、口蹄疫等の家畜伝染病が発生している場合には、周囲の野生鳥獣に異常がないか監視する。

6 普及啓発

(1) 鳥獣の保護管理についての普及等

① 方針

愛鳥ポスターコンクールや、愛鳥モデル校の指定などを実施することにより、鳥獣の保護思想の普及を図る。

② 事業の年間計画

(第30表)

事業内容	実施時期												備考
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
愛鳥週間行事	←				→								
広報機関による啓発	←												→

③ 愛鳥週間行事等の計画

(第31表)

区分	平成24年度～平成28年度	開催地	備考
愛鳥週間行事	ポスターコンクール (小・中・高校生) 愛鳥モデル校の指定 (小学校) ツバメの生息一斉調査 (小学校6年生) 巣箱づくり、バード・カービング教室 探鳥会	金沢市他	参加人員 ポスターコンクール 800人 ツバメの生息一斉調査 13,000人 各教室等 100人 探鳥会 300人 式典 (表彰) 50人 合計 14,250人

(2) 野鳥観察舎等の整備

(第32表)

名称	整備年度	施設の所在地	面積	施設の概要	施設の内容	利用の方針
河北潟野鳥観察舎及び野鳥生息ゾーン	S 6 1	金沢市湊	敷地面積 17,038㎡	観察舎 (木造高床 13.23㎡)	観察舎 フェンス 観察ブラインド マサキ生け垣	探鳥会や自然散策等を保護団体との連携により実施し、県民が鳥獣に親しく接する喜びが体得できるよう努める
ササゴイの池観察舎	S 6 2	金沢市 普正寺町	約9,400㎡	観察舎 (木造平屋 12.42㎡)	園路 マサキ生け垣 遊歩道 杭工 カキノキ	
ブナオ山観察舎	S 5 6	白山市尾添		観察舎 (木造2階建 225㎡)	大型双眼鏡、 望遠鏡設置	

(3) 愛鳥モデル校の指定

① 方針

児童・生徒が観察会などを通じ自然保護及び鳥獣保護への関心を高め、自らによる調査、保護活動を体験しながら地域への普及啓発を担うことを目的とし、概ね小中学校40校に1校の割合で愛鳥モデル校を指定する。

② 指定期間

5年

③ 愛鳥モデル校に対する指導内容

自然や鳥獣に関する図書、双眼鏡等を支給するとともに県職員・鳥獣保護員等により、観察の方法、調査および保護活動について指導助言を行う。

④ 指定計画

(第33表)

区分	平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度		
	既設	新設	計	既設	新設	計	既設	新設	計	既設	新設	計	既設	新設	計
小学校	8	2	10	8	2	10	8	2	10	8	2	10	8	2	10

(4) 法令の普及徹底

狩猟の適正化を推進するために、関係団体を指導するとともに、鳥獣に関する法令のうち、鳥獣捕獲の規制制度を重点に県広報、ポスター等により周知徹底を図る。